

令和5年度「露地・無加温・雨よけ」ぶどう病害虫防除暦 (JAながの志賀高原ブロック)

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
1 4月上旬 (発芽前) 月 日	- 1 1	水 展着剤 ㊸ ラビキラー乳剤 ベンレート水和剤	100 ℓ 20 mℓ 500 mℓ 250 g	200・ 400・	300 ℓ	ブドウトラカミキ リ 晩腐病 黒とう病	発芽前	2回 1回	①今回の防除は、石灰硫黄合剤と混用しない。 ②散布が遅れると薬害が出るので、発芽以前に散布する。 ③今回の防除と石灰硫黄合剤の散布間隔は、5日以上あける。 ④晩腐病が多発した園はベンレート水和剤200倍(休眠期 1回)を散布する。
2 4月中下旬 月 日	M9	水 展着剤 ㊸ デランフロアブル	100 ℓ 20 mℓ 500 mℓ	200・	300 ℓ	晩腐病 黒とう病 褐斑病	発芽直前	1回 -	①シャインマスカット以外の園地の場合、デランフロアブルに替えて㊸ベ フラン液剤25 250倍(休眠期1回)・石灰硫黄合剤20倍(発芽前)を使用し ても良い。 ②農薬の凝集があるので、ベフラン液剤25の希釈液を作り、かき混ぜな がら石灰硫黄合剤を加える。 ③㊸デランフロアブルは石灰硫黄合剤と混用は不可。 ④サビダニ対策として4年に1回程度、石灰硫黄合剤を使用する。 ⑤黒とう病対策として苗木にも必ず散布する
黒とう病対策 特別散布 5月上中旬 月 日	M3	水 展着剤 トレノックスフロアブル	100 ℓ 20 mℓ 100 mℓ	1,000・	300 ℓ	灰色かび病 べと病 晩腐病 黒とう病 褐斑病	60 日前まで	2回	シャイン・クイーンルージュ対象防除です。 ①黒とう病対策としてシャインマスカット・クイーンルージュ園では 必ず散布を行う。 ②黒とう病対策として苗木にも必ず散布を行う。
3 5月中下旬 展葉 5~6枚頃 月 日	M4 1	水 展着剤 オゾンサイド水和剤80 ㊸ ダイアジノン水和剤34	ℓ 100 mℓ 10 mℓ 125 g 100 g	800 800・ 1,000・	300 ℓ	晩腐病 黒とう病 べと病 カイガラムシ 類	30 日前まで 30 日前まで	3回 2回	①訪花昆虫保護の為、殺虫剤解禁後に防除を行う。 ②オゾンサイド水和剤80に替えてアリエッティC水和剤800倍(収穫30日前 まで 3回)を使用しても良い。
4 6月上旬 展葉9枚頃 月 日	- 21+M5	水 展着剤 ドーシャスフロアブル	100 ℓ 10 mℓ 50 mℓ	2,000・	300 ℓ	べと病 晩腐病 黒とう病	60 日前まで	3回	
5 6月上旬 展葉9枚頃 月 日	- -	水 アプローチBI フラスター液剤	100 ℓ 200 mℓ 200 mℓ	500・ 500・	150 ℓ		新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	2回	①農薬とは混用しない。(単用散布とする) ②重複散布は強い新梢伸長抑制効果があるので避ける。 ③生育・天候状況を確認し、適期に散布する。 ④種なしぶどうはアグレプト液剤1,000倍(満開14日前~開花始期 1回) を散布する。(10a当り300ℓ) ⑤種なし品種はアプローチBIを加用しない。 ⑥フラスター液剤はアスパラに対して、種なしに使用するアグレプト液剤 は、さくらんぼ、ブルーベリー、アスパラに対して食品衛生法の残留基準 値が最低レベルの0.01ppmである為、隣接園はドリフトに十分気をつけ て散布する。
6 開花直前 月 日	- M7+19 M3 1	水 展着剤 ポリベリン水和剤 ジマンダイセン水和剤 トクチオン水和剤	100 ℓ 10 mℓ 100 g 100 g 125 g	1,000・ 1,000・ 800・	400 ℓ	灰色かび病 べと病 晩腐病 黒とう病 アザミウマ	60 日前まで 45 日前まで 45 日前まで	2回 2回 3回	①ジマンダイセン水和剤の使用回数は2回。(マンゼブの成分を含む農薬 使用回数に注意。総使用回数2回) ②ポリベリン水和剤は、桃、さくらんぼ、プラム、ブルーベリー、 アスパラに対して、食品衛生法の残留基準値が最低レベルの0.01ppmで ある為、隣接園はドリフトに十分気をつけて散布する。 ③トクチオン水和剤はりんご、もも、プラム、ブルーベリー、さくらんぼ、ア スパラに対して食品衛生法の残留基準値が最低レベル0.01ppmである ため、ドリフトに十分気をつけて散布する。
7 前回から 10日以内 (落花直後) 月 日	2 11+27 13	水 ロブラール水和剤 ホライズンドライフロアブル ㊸ コテツフロアブル	100 ℓ 66 g 40 g 50 mℓ	1,500・ 2,500・ 2,000・	400 ℓ	灰色かび病 べと病 晩腐病 黒とう病 アザミウマ	60 日前まで 21 日前まで 60 日前まで	3回 3回 2回	①シャイン・クイーンルージュ園では㊸カナメフロアブル 4,000倍(収穫前日 3回)を加用する。 ②コウモリガ防除のためガットサイドSの原液~1.5倍液を主幹部に塗布 又は1.5倍液を散布する。(幼虫喰入期直前~喰入初期 但し収穫21日前 まで MEP2回以内) ③ホライズンドライフロアブルは、りんご、梨、アスパラ、桃、さくらんぼ、プ ラム、ブルーベリー、ブルーベリーに対して食品衛生法の残留基準値が0.01p pmである為、隣接園はドリフトに十分気をつけて散布する。

8	40+M3 9+12	水 カンパネラ水和剤 スイッチ顆粒水和剤 Ⓜ アドマイヤー顆粒水和剤	100 ℓ 100 g 50 g 20 g	1,000 * 2,000 * 5,000 *	400 ℓ	灰色かび病 べと病 晩腐病 黒とう病 アザミウマ	45 日前まで 30 日前まで 21 日前まで	2 回 2 回 2 回	①カンパネラ水和剤の使用回数は2回。(マンゼブの成分を含む農業使用回数に注意。総使用回数2回) ②防除が遅れない様に散布する。(果面の汚れ) ③無加温・雨よけ栽培は、カンパネラ水和剤に替えてレーバフロアブル2,000倍(収穫7日前まで 3回)を散布する。 ④スカシバ類の発生が多い園はフェニックスフロアブル(4,000倍 収穫14日前 2回)を加用する。 ⑤スイッチ顆粒水和剤は、アスパラに対して食品衛生法の残留基準値が最低レベルの0.01 ppmである為、隣接園はドリフトに十分気をつけて散布する。
月 日	40	無加温・雨よけは、カンパネラ水和剤に替えて、レーバフロアブル2,000倍					7 日前まで	3 回	
9	11 22	水 アミスター10フロアブル エトフィンフロアブル ディアナWDG	100 ℓ 100 ml 100 ml 10 g	1,000 * 1,000 * 10,000 *	400 ℓ	灰色かび病 べと病 晩腐病 黒とう病 アザミウマ	30 日前まで 7 日前まで 前日まで	3 回 4 回 2 回	①散布時期を厳守し、果面の汚れに注意し散布する。 ②晩腐病の感染を未然に防ぐ為、摘粒を早急に実施し、袋掛け、傘掛けを早めに行う。 ③エトフィンフロアブルは、りんご、桃、さくらんぼ、プラム、プルーン、梨、ブルーベリー、アスパラに対して食品衛生法の残留基準値が最低レベルの0.01ppmである為、隣接園はドリフトに十分気をつけて散布する。
月 日	5								
(特別散布)	3 21	水 オンリーワンフロアブル ランマンフロアブル アーデントフロアブル	100 ℓ 50 ml 50 ml 50 ml	2,000 * 2,000 * 2,000 *	400 ℓ	灰色かび病 べと病 晩腐病 黒とう病 アザミウマ	前日まで 14 日前まで 前日まで	3 回 3 回 4 回	①散布時期を厳守し、果面の汚れに注意し散布する。 ②晩腐病の感染を未然に防ぐ為、摘粒を早急に実施し、袋掛け・傘掛けを早めに行う。 ③降雨が多く、又は摘粒、袋掛け、傘掛けが遅れる場合は特別散布を使用する。 ④ランマンフロアブルの成分とドーシャスフロアブルの成分が同一成分のため使用回数に注意する。(総使用回数3回) ⑤ランマンフロアブルは、りんご、さくらんぼ、プラム、プルーン、梨、ブルーベリー、アスパラに対して食品衛生法の残留基準値が最低レベルの0.01ppmである為、隣接園はドリフトに十分気をつけて散布する。
月 日	3								
10	M1 14	水 展着剤 ICボルドー66D パダンSG水溶剤 Ⓜ モスピラン顆粒水溶剤	100 ℓ 10 ml 2.5 kg 66 g 50 g	40 * 1,500 * 2,000 *	400 ℓ	べと病 スカシバ類 アザミウマ類 カイガラムシ類	21 日前まで 14 日前まで	- 5 回 3 回	①ICボルドー66Dに替えて、ホライズンドライフロアブル2,500倍(収穫21日前まで 3回)でも良い。
月 日	4								
11	M1 3A	水 ICボルドー66D テルスター水和剤	100 ℓ 2.5 kg 100 g	40 * 1,000 *	400 ℓ	べと病 アザミウマ類	14 日前まで	1 回	①ICボルドー66Dに代えてレーバフロアブル2,000倍(収穫7日前まで 3回)又は、エトフィンフロアブル1,000倍(収穫7日前まで 4回)でも良い。但し、隣接園への飛散は十分注意する。 ②アメリカシロヒトリ発生園はアディオン水和剤2,000倍(収穫7日前まで 5回)を加用する。(直前混用) ③収穫が遅れる場合は9月中旬にICボルドー66Dを散布する。 ④収穫終了後、晩腐病の耕種的防除として二番成り、巻きひげ、果梗痕をきれいに取り除く。
月 日									
12		水 ICボルドー66D	100 ℓ 2.5 kg	40 *	400 ℓ	べと病		-	
月 日									
13		水 ICボルドー66D	100 ℓ 2.5 kg	40 *	400 ℓ	べと病		-	
月 日									

※ Ⓜは劇物です。購入の際は印鑑が必要です。

この防除基準はJAながの志賀高原にて作成されたものですので、地区内生産者・組合員以外の利用を固くお断りします。